

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 国民スポーツ大会選手団派遣事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 競技スポーツ課 競技スポーツ係 電話番号：058-272-1111(内2644)

E-mail：c11173@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 91,574 千円 (前年度予算額： 89,524 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	89,524	0	0	0	0	0	0	0	89,524
要求額	91,574	0	0	0	0	0	0	0	91,574
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

①本大会

・令和5年度に開催された鹿児島特別国体では、天皇杯13位、皇后杯9位、総得点1350点を獲得した。(令和3年度は、東海ブロック大会は実施したが、本国体は中止、冬季国体は開催。令和4年度栃木国体では、天皇杯13位、皇后杯7位、総得点1321点を獲得。)

・平成25年度以降は、「ぎふ清流国体」にむけて取り組んできた選手強化の成果を、一過性のものにする事なく、今後も継続して維持発展させていくことが必要である。

②東海ブロック大会

・ぎふ清流国体において県の競技力は飛躍的に向上し、予選会を突破する競技種目が増加した。現在もその数を維持している。

・ぎふ清流国体で向上した競技力を今後も維持していくために派遣を補助する。

(2) 事業内容

①本大会

国民体育大会への選手団派遣に対する補助

・開催場所 佐賀県他

・開催時期 夏季大会：令和6年10月5日～10月15日

冬季大会：令和7年1月～2月

②東海ブロック大会

・国民体育大会東海ブロック大会に派遣される選手団の派遣費に対し補助する。

・本大会の東海ブロック大会は、岐阜・三重・愛知・静岡の東海4県で各県持ち回りの開催となっており、当大会にて種目ごとに勝ち抜いた県が本大会への出場権を得る。令和6年度は愛知県で開催される。

(3) 県負担・補助率の考え方

本大会 交通費、運搬料等：実費 宿泊費：協定額
東海ブロック大会 交通費：実費 宿泊費：協定額の1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	91,574	本大会 交通費、運搬費等：実費 宿泊費：協定額 東海ブロック大会 交通費：実費 宿泊費：協定額の1/2
合計	91,574	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「長期構想」との関係

人口減少と高齢化の進展が見込まれる中で、誰もが地域を支える貴重な人材として、生涯、健康で活躍できるように、子どもの頃から高齢化に至る生涯を通じた健康づくりを支援する。

(2) 後年度の財政負担

毎年度、当該補助経費の必要性や妥当性の検討をする。

(3) 事業主体及びその妥当性

(公財) 岐阜県スポーツ協会

岐阜県スポーツ協会は県内の競技団体を統括する組織であり、国民体育大会においても県選手団を統括する組織である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	国民体育大会選手団派遣事業費補助金
補助事業者（団体）	国民体育大会及び東海ブロック大会出場競技団体 （理由） 大会出場選手を選定し、選手の派遣等実務を担う団体である。
補助事業の概要	（目的） 国内最大のスポーツイベントである国民体育大会に選手団を派遣することで、広く県民の間にスポーツを普及させ、併せてスポーツの復興と地方文化の発展に寄与する。 （内容） 国民体育大会本大会及び東海ブロック大会への選手団派遣に対する補助。
補助率・補助単価等	定額 （内容） ・本大会 交通費、運搬費等：実費 宿泊費：協定額 ・東海ブロック大会 交通費：実費 宿泊費：協定額の1/2 （理由） 本大会の予選である東海ブロック大会では交通費：実費 宿泊費：協定額の1/2を補助する。 本大会では交通費、運搬費等：実費 宿泊費：協定額
補助効果	広く県民の間にスポーツを普及させ、併せてスポーツの復興と地方文化の発展に寄与する
終期の設定	終期 令和8年度 （理由） 第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画終期

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>毎年度開催される国体において、国体出場に係る費用の一部を補助することで、各競技団体の財務負担を軽減し、選手強化活動に係る予算割合を増やして、十分な競技力向上を図り、多くの競技種目で勝ち抜き、より多数の選手を国体へ派遣し、県の全体的な競技力向上に寄与する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R元)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標	
					(R)	達成率
①国民体育大会 本大会派遣人数	490人	593	580人	580人	580人	102.2%
②東海ブロック大会 派遣人数	773人	845	800人	800人	800人	105.6%

補助金交付実績 (単位：千円)	R2年度	R3年度	R4年度
	73,402	73,384	70,857

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	令和2年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため本国体、東海ブロックともに延期。 指標① 目標：580人 実績：なし 達成率：なし
令和3年度	令和3年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため東海ブロック大会は一部実施、国体本大会は中止。国体冬季大会は実施。 指標① 目標：580人 実績：なし 達成率：なし
令和4年度	令和4年度栃木国体は予定通り開催。天皇杯13位、皇后杯7位、総得点1321点を獲得した。 指標① 目標：580人 実績：593人 達成率：102.2%

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	県として今後のスポーツ振興を図っていくため、本大会及び東海ブロック大会に選手団を派遣し競技力の向上を行う必要がある。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	令和4年度栃木国体では、天皇杯13位、皇后杯7位を獲得した。栃木国体にかかる予選会については、20競技50種別の競技が予選突破し、県の競技力がぎふ清流国体以降も維持できている。今後も引き続き予選会、本大会に選手を派遣し選手団を支援する。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	近年、本大会は県に係る参加料・昼食代、東海ブロック大会派遣に係る昼食代については、補助を見直し経費作減を図った。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

ぎふ清流国体を一過性のものとすることなく、今後も継続して競技力の強化に取り組む必要がある。そのため、予選会を通じて国体へ選手団を派遣し、これまで構築されてきた強化の基盤の上で、さらなる競技力の向上を図る。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

国民体育大会は今後も継続して行われる、国内最大のスポーツイベントである。より多くの選手団を派遣することで、広く県民の間にスポーツを普及させ、併せてスポーツの復興と地方文化の発展に寄与する。